

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	②-15	実施計画番号	19	事業開始年度	平成22年度
事務事業名	農業用排水路・農道集落道等の整備			事業終了年度	平成29年度
担当課名	農林畜産課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	降雨時に溢水のおそれのある用排水路及びすれ違いや通行に支障のある農道を整備することにより、農産物の品質向上や流通の合理化を図る。				
事務事業の目的	農業用用水の安定的供給と排水施設、狭小な農道等を整備することで、農業生産の省力化や利便性の高い環境づくりを進める。(農用排:1,394m, 農道等:6,295m)				
実施状況	県(上北地域県民局)が農業用排水路1路線20.0m及び農道2路線398.4mの整備を行い、市では事業費に対して負担金を支出した。(事業実施年度:平成22~29年度)				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	48	48	48
	人件費(千円)	1,728	1,728	1,728
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

## 【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		173,250	185,146	162,750

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		農業用排水路の整備(当該年度分)			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			m	20	446	200
	活動指標名②		農道等の整備(当該年度分)			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			m	398	828	840
成果指標	成果指標名①		農業用排水路の整備の進捗率			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	整備済延長 整備予定延長	%	目標値	53%	86%	100%
			実績値	53%	86%	
			達成度(%)	100%	100%	
	成果指標名②		農道等の整備の進捗率			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	整備済延長 整備予定延長	%	目標値	49%	62%	75%
			実績値	49%	62%	
			達成度(%)	100%	100%	

## 十和田市事務事業評価シート

### 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	①	<b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">地域の農作業の合理化と農業生産性の向上のため、環境整備が必要である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	地域の農作業の合理化と農業生産性の向上のため、環境整備が必要である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
地域の農作業の合理化と農業生産性の向上のため、環境整備が必要である。										
②	<b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2						
<b>有効性</b>	③	<b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業はほぼ順調に推移しており、県営の土地改良事業のため、市による見直しの余地はない。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	事業はほぼ順調に推移しており、県営の土地改良事業のため、市による見直しの余地はない。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	事業はほぼ順調に推移しており、県営の土地改良事業のため、市による見直しの余地はない。									
④	<b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2						
⑤	<b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
<b>効率性</b>	⑥	<b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">県営の土地改良事業のため、コスト削減の余地はない。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	県営の土地改良事業のため、コスト削減の余地はない。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	県営の土地改良事業のため、コスト削減の余地はない。									
⑦	<b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
⑧	<b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
<b>公平性</b>	⑨	<b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">県営の土地改良事業であり、国で定めた指針に基づき、国55%、県30%、地元15%の負担割合となっているため、検討の余地はない。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	県営の土地改良事業であり、国で定めた指針に基づき、国55%、県30%、地元15%の負担割合となっているため、検討の余地はない。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
県営の土地改良事業であり、国で定めた指針に基づき、国55%、県30%、地元15%の負担割合となっているため、検討の余地はない。										
⑩	<b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
<b>現在の適性</b>					<b>20 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>0 / 20</b>			

### 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

### 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

現状のまま継続

#### 方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

課題路線の整備に向けて計画的に取り組めます。

#### 今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

課題路線の整備に向けて計画的に取り組む、農業の生産性の向上を図ります。